

■ 事業概況 (平成24年度)

平成24年度の当会の事業につきましては、府内JAをはじめ地域のみなさまのご協力のもと、事業収益は9,247百万円（前年対比△738百万円）、経常利益は2,390百万円（前年対比+316百万円）、当期剰余金は1,796百万円（前年対比+367百万円）を計上しました。

以下につきましては、各業務部門の報告です。

■ 金融推進業務

1. JA信用事業強化に向けた取り組み

平成24年度JAバンク京都実践方策に基づき、府内JAの事業量目標、経営数値目標の必達に向け、最重点実践事項である年金振込口座獲得をはじめ、府内統一キャンペーンの実施による個人貯金の増強や、JAバンクローンの残高伸長に取り組みました。

府内JA貯金は、11,961億円(前年対比+4.7%)、貸出金は2,281億円(前年対比△4.2%)となりました。

2. 信頼されるJAバンク京都の確立

財務・体制整備モニタリングにより、経営状況および業務執行体制を点検・確認したほか、全国監査機構監査に帯同して府内20店舗を巡回し、内部統制整備支援および不祥事未然防止に向けた点検を実施しました。

■ 貯金業務

府内JAの貯蓄増強キャンペーンや年金獲得推進の積極展開による個人貯金の増加によりJAからの受入貯金が増加した結果、期末貯金残高は9,738億円（前年対比+10.5%）となりました。

また、貯金奨励金を46億円支払い、安定還元に努めました。



■ 融資業務

農業金融センターがJAや他の連合会と連携し、メイン強化先への訪問活動を継続的に実施した結果、農業資金の期末残高は1,941百万円（前年対比+36.8%）、日本公庫資金の期末残高は2,478百万円（前年対比△3.4%）となりました。

上場企業・地場企業を中心に営業活動を行い新規継続訪問先は増加しましたが、資金需要が低迷する中、期末融資残高は786億円（前年対比△12.2%）となりました。



■ 余裕金運用業務

短期資金については、系統預金を中心に流動性を確保しつつ買入金銭債権の取得により効率運用に努めました。

た。期末の預け金残高はウインターキャンペーンによるJA貯金の増加も反映して、5,954億円(前年対比+19.1%)となりました。

有価証券については、金融債・地方債の定例取得を継続したほか、信用スプレッドが拡大した社債を銘柄選別のうえ取得する等利回りの向上に努めました。また、株式および受益証券(ETF)の残高圧縮に取り組みました。

この結果、期末の有価証券残高は2,632億円(前年対比+1.8%)、金銭の信託は629億円(前年対比+2.3%)となりました。

■ 為替決済業務

国庫金振込事務検査(5JA54店舗)に加え、年金の制度変更内容を中心とした国庫金振込説明会および各種研修会を実施し、適正な事務処理の徹底を図りました。

また、JA本支店間メールにおける送迎状況等の一斉点検を継続的に実施し、メールの安全運行と防犯強化に取り組みました。

府内全体の為替取扱高(仕向・被仕向)は、1兆4,197億円(前年対比+13.9%)、手形交換取扱高(持出・持帰)は547億円(前年対比+0.2%)となりました。